co-creation × innovation

QUEST

共創テーマ発信ピッチ／Co-creation Theme Pitch

分野/Category 民間セクター/Private sector

共創テーマ「大学の技術シーズと企業のビジネスニーズをつなぐ」

Co-Creation Theme
“Linking frontier technologies from academia with the business challenges that matter”

対象国・地域:インド

Target county/Region:India

インド概要/ India Overview

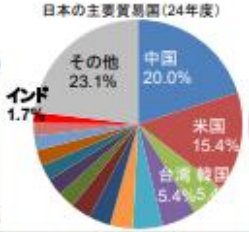
日インド関係（2）

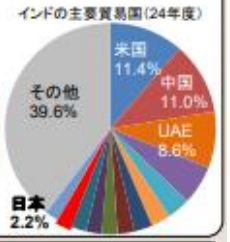
5

経済・投資・イノベーション

- 近年、インドは我が国最大規模の円借款受取国。高速鉄道、デリーメトロ等を支援（2024年度は約2,760億円を供与）。
- 連結性協力として、第三国や印北東部での協力を具体化。
- 2011年8月に日インド包括的経済連携協定（CEPA）発効。
  2024年度の貿易総額は約3兆7,098億円（日から印：約2兆6,512億円、印から日：約1兆586億円）。
  （出典：財務省貿易統計）
- 2025年8月のモディ首相訪日時に、対印民間投資10兆円の目標を表明。
- 2024年度の日本の対インド直接投資実行額は約9,608億円。（出典：財務省対外直接投資統計）
- インドへの進出日系企業数は近年横ばいで推移（2024年10月時点で1,434社、5,205拠点）。
- 新たな分野を含め2国間の協力を積極的に推進。
  デジタル・パートナーシップ2.0、AI協力イニシアティブ、対印スタートアップ企業支援イニシアティブ、クリーン・エネルギー・パートナーシップ、二国間クレジット制度（JCM）、次世代モビリティ・パートナーシップ等の立上げ・構築

2025年8月モディ首相訪日時の新幹線乗車（東京～仙台）





人的交流・学術交流

- 2025年8月のモディ首相訪日時に、高度人材を始めとするインド人材の力を日本経済の成長・地方創生に活かすとともに、高度・専門的技術を学んだインド人が自国に戻り、その発展に寄与する相互補完的な人材の育成・還流の促進を目指す「日印人材交流イニシアティブ」を発表。
- 2025年度「日印科学技術交流年」
- インド工科大学ハイデラバード校、インド情報技術大学ジャバルプル校との協力。

	日印間	日中間	割合
日本人訪問者数（24年：各国政府観光局）	約19万人	約268万人 ※2019年の数値	1／14
訪日外客数（24年：JNTO（注1）） ※推計値	約23万人	約698万人	1／30
在日留学生数（24年：JASSO（注2））	1，685人	123，485人	1／73
在留邦人数（24年：外務省）	8，102人	97，538人	1／12
在留外国人数（24年：法務省）	53，974人	873，286人	1／16
日本語学習者数（24年度：JF（注3））	52，946人	1，019，197人	1／19
地方自治体間交流（24年：CLAIR（注4））	7組	381組	1／54
国際航空定期便数（24年：国交省）	24便／週	1024便／週	1／42

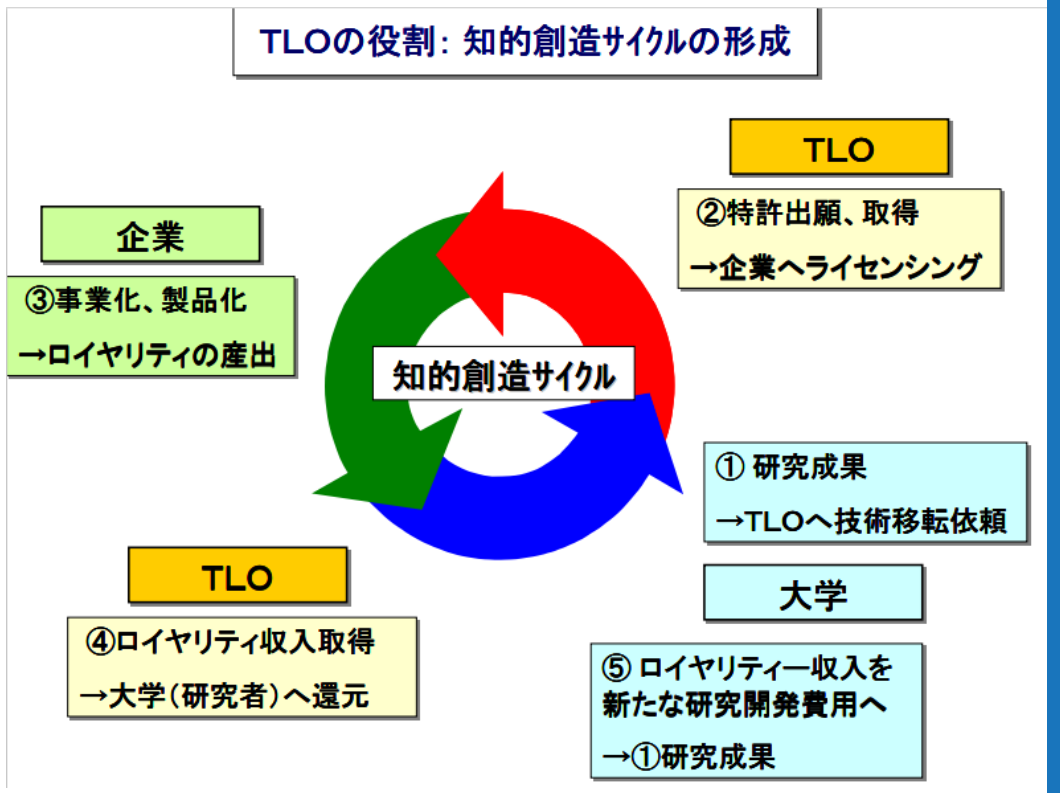
（注1）日本政府観光局(Japan National Tourism Organization)、（注2）日本学生支援機構 (Japan Student Service Organization)、（注3）国際交流基金 (JAPAN FOUNDATION)、（注4）自治体国際化協会(Council of Local Authorities for International Relations)

（出所）https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100407780.pdf

解決したい課題/Challenges

途上国における大学発のイノベーション創出 /Innovation originating from universities of developing countries

- 途上国の大学の研究成果・特許の多くは、ビジネスに活用されていない。/Many research results and patents from universities in developing countries are not being utilized in business.
- これらの研究成果・特許を、適切にビジネスに繋ぐことができれば、イノベーションを創出できる。/If these research results and patents can be properly connected to business, they can lead to the creation of innovation.
- このような産学連携が広く普及すれば、イノベーション創出が促進され、経済成長が持続化する。/If such industry–university collaboration becomes widely established, it will promote innovation and sustain economic growth.



（出所）https://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/tlo/saikuru.pdf c

これまでのJICAの取り組み/
JICA's activities
in the past

大学とビジネス、それぞれに対する支援/
Support provided to universities and businesses, respectively

（1）インド工科大学ハイデラバード校
Indian Institute of Technology Hyderabad (IITH)

概要

インド工科大学（IITs）は、工学分野でインド最高峰、世界的にも有名な国立の高等教育機関群。
IITHは2008年に教育省により設置された第二世代校。
インド国内初のAI学科を含む17の学科を有し、
全23校あるインド工科大学内でのランキングは7位、
QS世界ランキング 664（2025年）

豊富な人材

教員数：330名　うち女性教員37名
学生数:5,700名　うち博士学生1,584名
（2025年）

多様なネットワーク

学術協定:22 大学間、7 部局間、産業技術総合研究所、理化学研究所、物質・材料研究機構など
提携日系企業：100社以上

高いポテンシャル

特許出願数: 557件（2025年累計)
発表論文数: 12,092本（2025年累計)
外部連携プロジェクト:約280億円以上（2025年累計)

日本企業への就職実績

これまでに日系企業に210名が就職
インターンシップは84名が参加

就職先例
楽天、NTT-AT、アクセンチュア
スズキ、デンソー
（2025年時点の採用数上位5社）

（右図は2021年の主要就職先）

MTX
Yokogawa
Rakuten
Microsoft
TSMC
Accenture Japan
NTT-AT
Alphonso Inc
Amazon
DG Takano

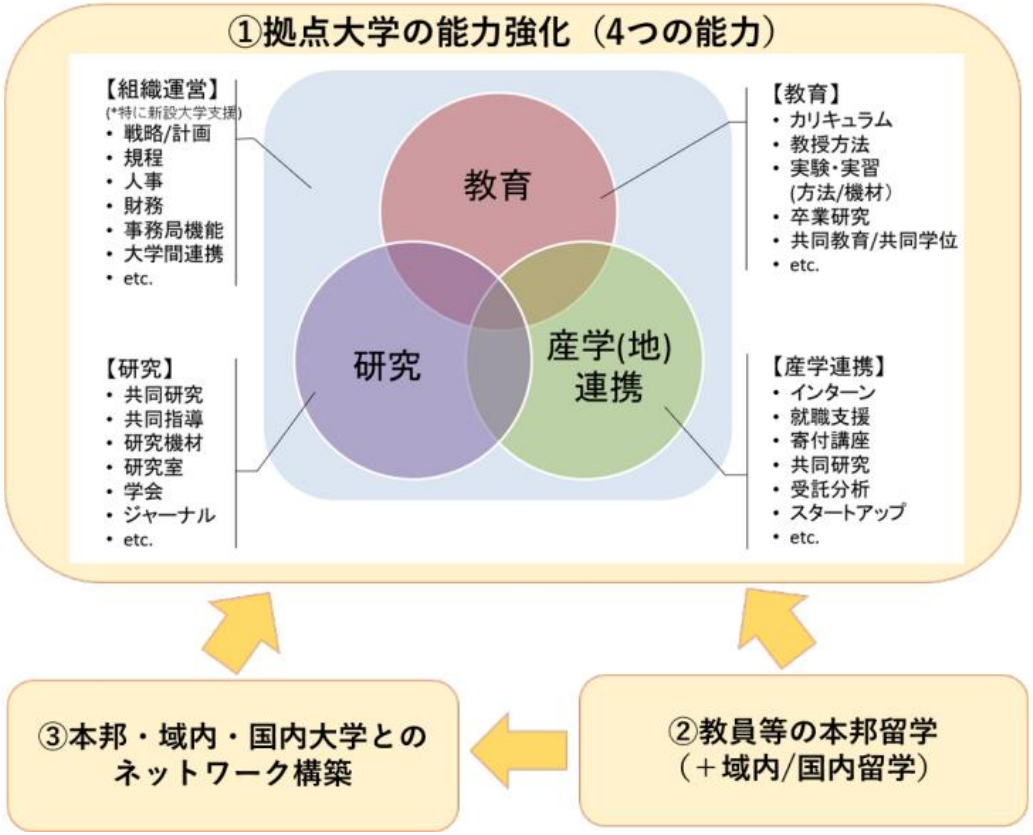
IITH Technology Research Park Foundation

出所：IITH Website

これまでのJICAの取り組み/JICA’s activities in the past

大学とビジネス、それぞれに対する支援
/Support provided to universities and businesses, respectively

- インドでは、インド工科大学ハイデラバード校、インド工業連盟それぞれに対して協力を実施中。/In India, we are currently collaborating with both the Indian Institute of Technology Hyderabad (IITH) and the Confederation of Indian Industry (CII).
- 大学向け協力では産学連携にも取り組んでいるが、イノベーション創出につながっておらず、知見を有するアクターとの共創が必要。/Although our university-focused cooperation includes efforts to promote industry–academia collaboration, it has not yet led to innovation, and co-creation with actors who possess relevant expertise is needed.



https://www.jica.go.jp/activities/issues/education/__icsFiles/afieldfile/2024/08/26/Cluster4.pdf

実証を通して明らかにしたいこと/ Image of POCs

1. インド工科大学が保有する研究成果や特許は、企業ビジネスにおいてどの程度活用可能か？/To what extent can the research results and patents owned by the IIT be utilized in corporate business?

2. インド工科大学と企業（国籍不問）の連携（産学連携）の推進は可能か？/Is it possible to promote industry–academia collaboration between the IIT and companies?

JICAから提供できること/What JICA Can Offer

- インド工科大学ハイデラバード校及びインド工業連盟に派遣されているJICA専門家によるコンサルテーション/Consultations provided by JICA experts dispatched to the IITH and the CII.
- インド工科大学ハイデラバード校の産学連携部門のご紹介/Introduction to the industry–academia collaboration division of the IITH.

検証結果の先に想定している展開・Next step for the POC results

- 提案者自身による、インドあるいは他の途上国における産学連携の取組みの推進/Promotion of initiatives for industry–academia collaboration in India or other developing countries led by the proposer.
- Project NINJAにおける、大学発ベンチャー、ディープテック・スタートアップに対する支援の強化の検討/Consideration of strengthening support for university-based ventures and deep-tech startups under Project NINJA.
- JICAによる高等教育分野（拠点大学強化）と民間セクター開発分野（Project NINJA等）の連携案件の立ち上げ/Launch of collaborative projects between JICA's higher education programs (university capacity enhancement) and private-sector development programs (such as Project NINJA).

※なお、インド工科大学ハイデラバード校の有する特許については、以下リンクにある、インド政府のパテントデータベースで検索可能/Patents held by the IITH can be searched in the Indian government's patent database available at the link below. https://iprsearch.ipindia.gov.in/publicsearch

メッセージ/Key Message

知とビジネスを結び、新しい未来を紡ごう。
“Let’s unite knowledge and business,
and weave a new future."

共創テーマ「大学の技術シーズと企業のビジネスニーズをつなぐ」

Co-Creation Theme
“Linking frontier technologies from academia with the business challenges that matter”

対象国・地域:インド

Target county/Area:India

co-creation × innovation

QUEST